

灰にかえて冠を：赦しに至る癒しの道



「長年にわたって、赦しに至る道を歩みながら平安と癒しを見いだそうと努力した末、わたしの罪を贖ってくださった神の御子は、自分を深く傷つけた人たちのことも救われる同じ贖い主であられるということに、深淵な方法で気づきました。後者を信じることなしに、前者の真理をほんとうに信じることはできません。

救い主に対する愛が深まるにつれ、傷と怒りを主の癒しの乳香に替えたいという望みも強まりました。それは何年にも及ぶ過程であり、勇気や忍耐、弱さを見せること、そして人を救い、癒すことのできる救い主の神性な力に対する信頼を会得しなければなりません。まだ努力の途中ですが、もう心に敵意はありません。わたしは『新しい心』〔エゼキエル36：26〕を頂きました。自分の隣にいてくださり、忍耐強くよりよい場所へと導いてくださり、助けてくださり、わたしの悲しみを知っておられる、自分の救い主の、深くて不変の愛を感じたためです。

リチャード・G・スコット長老はこう述べています。『過去に起こったことを消し去ることはできません。でも赦すことはできます。赦しはひどい傷を癒します。主の愛によって心の中の憎しみの毒が消されるからです。復讐の思いをなくしてくれます。主の清めと癒しと愛が取って代わるのです。』〔「忌まわしい虐待の傷を癒す」『聖徒の道』1992年7月号、37〕

わたしの地上の父も近年、奇跡的な心の変化を経験し、主に心を向けるようになりました。この世で起こるとは思ってもみなかったことです。人を変える、イエス・キリストの完全な力に対する証がまた一つ増えました。

主は、罪人と、罪の被害を受けた人を癒すことができになります。主は世の救い主、贖い主であり、わたしたちが再び生きることができるよう命をささげられた御方です。主はこう述べておられます。『主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ〔る〕。』〔ルカ4：18；強調付加〕

心の傷ついた人や囚人、打ちひしがれている人、そして恐らく傷や罪により盲目になっているすべての人々を、主は癒し、立ち直らせ、解放して下さいます。主が実際に人を癒し、立ち直らせてくださることを証します。その癒しの時期は人それぞれで、わたしたちにはほかの人の時期を判断することはできません。癒しに必要な時間を自分に与え、その過程で自分自身に思いやりを持つことは重要です。救い主は常に情け深く、思いやりがあり、わたしたちが必要としている援助を与える用意を整えておられます〔アルマ7：11-12参照〕。

赦しと癒しの道には、家族やほかの場において、不健全な規範や人間関係を持続させないという選びがあります。わたしたちの影響の及ぶ範囲内のすべての人に対して、残忍さには思いやりを、憎しみには愛を、無礼さには穏やかさを、心痛には安心を、争いには平和を与えることができます。

自分が与えてもらえなかったものを与えることは、イエス・キリストを信じる信仰を通して実現できる、神性な癒しの力強い部分です。イザヤが述べたように、自分の人生の灰を冠に変えるような人生を送ることは〔イザヤ61：3参照〕、すべての人を救うためにあらゆる苦しみを受けられた救い主の至高の模範に倣った、信仰の行いです。……

愛と赦しの最も偉大な模範は救い主イエス・キリストの模範であることを証します。イエス・キリストは、激しい苦しみの中で、こう言われました。『父よ、彼らをおゆるしくください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。』〔ルカ23：34〕（クリスティン・M・イー「灰にかえて冠を：赦しに至る癒しの道」『リアホナ』2022年11月号、37-38）